

## ごでら 牛寺遺跡

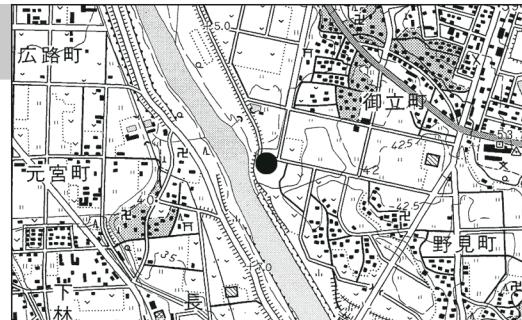
**所 在 地** 豊田市御立町11丁目  
(北緯35度4分25秒、東経137度10分17秒)

**調査理由** 矢作川野見地区改修事業

**調査期間** 平成17年6月～7月

**調査面積** 1300m<sup>2</sup>

**担当者** 小澤一弘・永井宏幸・鵜飼雅弘



**調査の経過** 本遺跡の調査は、矢作川野見地区改修事業に伴う事前調査として、国土交通省豊橋河川事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成17年6月から7月にかけて実施した。調査面積は1300m<sup>2</sup>である。

**立地と環境** 本遺跡は矢作川左岸の段丘低位面上、標高約39mに位置する。遺跡は南に牛寺廃寺、北に古城遺跡が隣接し、同じ段丘上には曾根遺跡、八柱神社古墳、市塚古墳などが所在する。

**調査の概要** 調査の結果、以下の遺構を確認した。

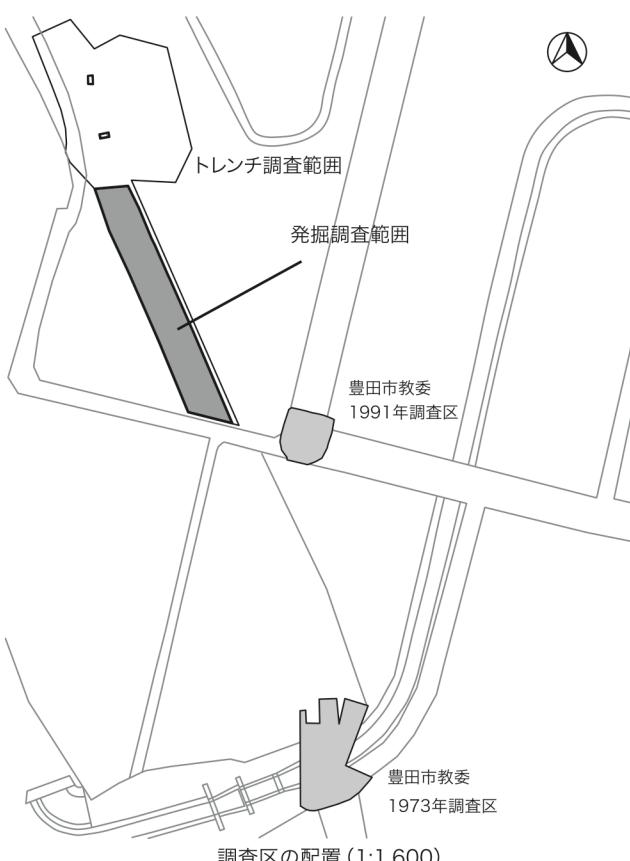
**縄文時代** 後世行われた整地の影響を受けており、周溝などを確認する事ができなかったが、竪穴住居に伴う柱穴を1棟分確認した。また土坑SK06aでは土器敷戸を確認した。敷設されていた土器が神明式にあたる事から、縄文中期後半に位置づけられる。またSK06bでは打製石斧が出土している。

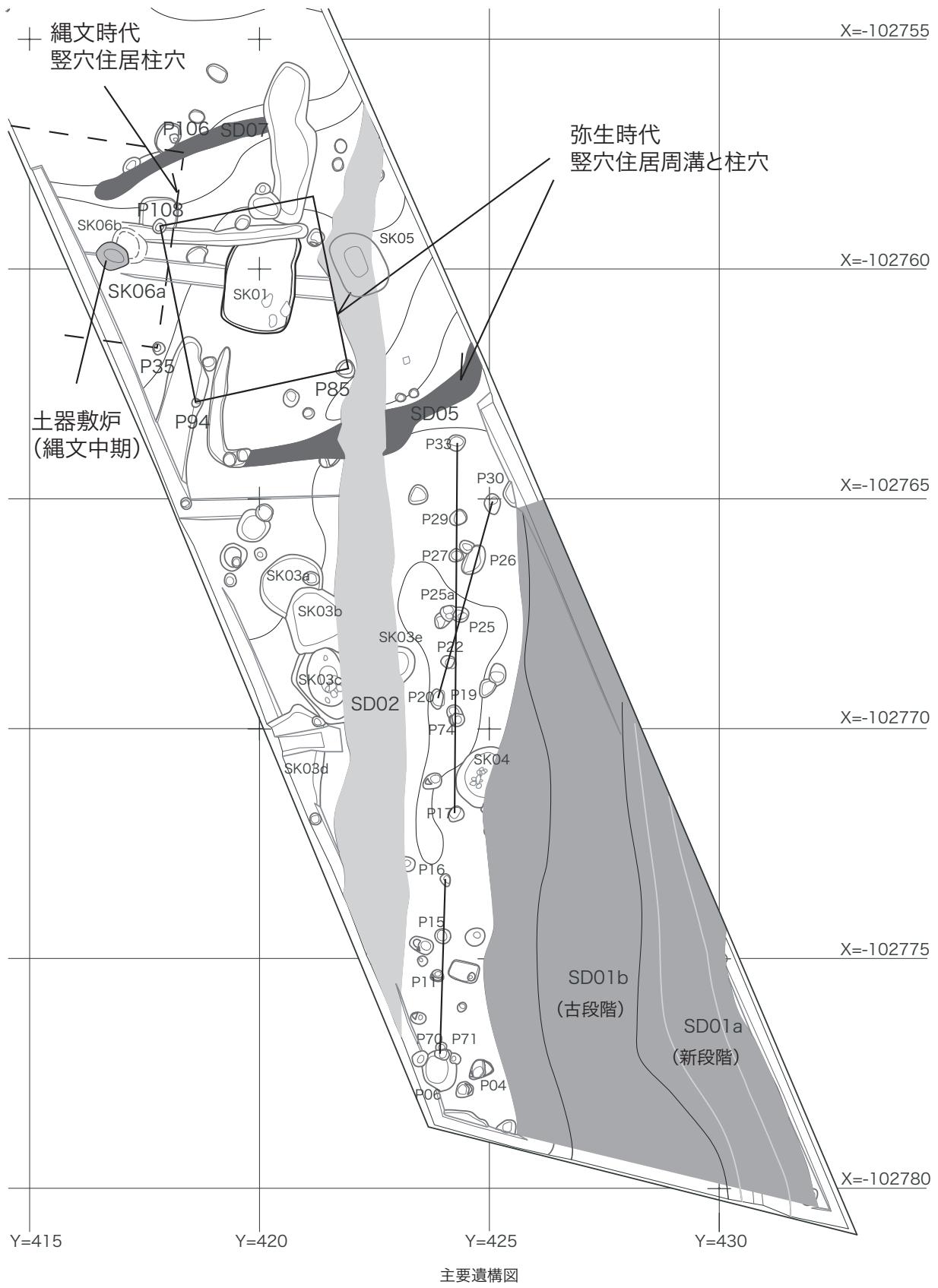
**弥生時代** SD05とSD07は竪穴住居の周溝と考えられ、P85、P94、P105はこれに伴う柱穴と考えられる。SD05の付近からは高杯の脚部が出土している。

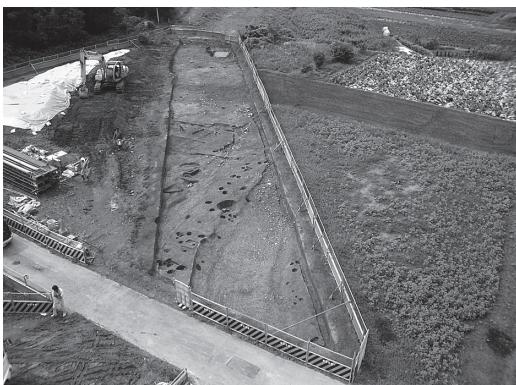
**古代以降** 南北に伸びる溝SD01・02を確認した。このうちSD01は幅5～6mを測り、古・新の2段階に分かれる。出土遺物から古段階は尾張型山茶碗5形式もしくは6形式、新段階は古瀬戸後期に位置づけられる。またSD01・02に平行するピット列も確認されており、何らかの区画を表していると考えられる。このほかにSK03・04が確認されている。なお調査区の北側は急激に傾斜しており、トレンチ調査を実施したが遺構を確認する事はできなかった。矢作川と賀茂川の合流地点に相当すると考えられる。

**ま と め** 今回の調査の結果縄文中期及び弥生時代の遺構が確認されたことは、この地域における集落の存在を推定する大きな根拠となりうるものである。また調査区のすぐ東では1991年豊田市教育委員会により発掘調査が行われ、今回と同様に12世紀中葉から後葉にかけての溝とピット列が確認されている。北200mに隣接する古城遺跡との関連を含め、今後遺構の検討が必要となろう。

(鵜飼雅弘)







調査区全景 南東から



竪穴住居完掘状況



SK06a土器敷炉出土状況



SK06b石斧出土状況



高杯出土状況



SD02石組出土状況



SD01・02完掘状況



SK03石出土状況